

技術力を証明する一つの手段として 技術士を取得しよう

— 技術士（建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）） —

1. はじめに～受験の動機・経緯～

近年、プロポーザル方式などで発注されるコンサルタントの委託業務では、参加資格の要件として技術士を求めていたり、技術士の保有に対して加点されるなど技術士の資格が重要となっています。こういったことから、業務を担当されるコンサルタントの技術者の多くは技術士を保有されています。また、発注者も技術士を保有していることが増えてきました。

このような周りの環境に影響され、また自身のスキルアップにもなると考え、技術士試験を受けることにしました。

2. 二次試験の筆記における傾向

試験方法が改正されたことによって、今年度からは必須科目が択一式から記述式に変更になりました。この体験記を書く上でどのような問題が出題されたかを見てみると、やはり生産性の向上について出題されていました。生産性の向上というキーワードは予想していましたし、課題抽出と課題に対する解決策も例年どおりです。しかし、そこからさらに掘り下げて、解決策から生じるリスクとその対策などが問われて

おり、技術者としての経験がより重視されるようになっていきます。上っ面の知識だけでは回答できないと感じました。

平成19～24年度試験の必須科目は記述式だったようで、日本技術士会のホームページに掲載されている過去問を見てみると、人口減少・高齢化、技術の継承、アセットマネジメント、社会資本整備のあり方、地球環境問題などがキーワードとなっていました。

今でもホットなワードなので、これらに加えて、最近のトレンドとして、働き方改革や生産性革命、ICTの活用などがキーワードとして想定されます。特に河川の分野では水防災意識社会の再構築、ダム再生、大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策、平成30年7月豪雨を踏まえた避難のあり方などが想定されます。これは外せないキーワードだと思います。

3. 二次試験の筆記における対策

このように想定したキーワードに対して、現状と課題、対応策などを体系的に整理しておけば、必須科目だけでなく選択科目の記述式にも対応できると思います。

私は基本的に面倒くさがりなので、記述式については、過去問に対して回答を作成することや想定問題を作って回答を作成することはしませんでした。

唯一、先ほど述べたようなキーワードを想定し、そのキーワードに対して現状と課題、対応策などを体系的に整理し、内容を確実に理解した上で試験に臨みました。内容を理解していれば、記述式で何を書けば良いかわからないということはないと思います。

キーワードの整理と理解には国土交通省の審議会や検討会等の資料が役に立ちました。これらは国土交通省のホームページで公開されていますので確認してみてください。

4. 口頭試験における傾向と対策

受験された先輩方がホームページ等で想定QAや再現QAを掲載されていますので、それらを参考にしながら自分用の想定QAを作成しました。これは受験者全員がされることと思いますが、私は可能な限りたくさんの想定QAを用意しました。そのため、面接官からの意地悪な質問に対しても、想定QAを組み合わせることで何とか回答することができました。

また、試験の申込時に記載した経歴に対しても質問されます。詳細に記述した業務内容はプレゼンできるほどに準備しておくことが必要ですが、列記した経歴1つ1つに対しても質問されますので、業務の概要、課題、問題点、解決



京都府 山城南土木事務所
企画調整担当 主査

まつうら しゅんすけ
松浦 俊介

(取得した資格：技術士(建設部門：河川、砂防及び海岸・海洋)
資格取得年度：平成29年度)

策を整理しておく必要があります。

5. おわりに～受験者へのアドバイス等～

ところで皆さんは、「かし」「かいり」「じんそく」「ぜいじゃく」「けんさん」「ぎせい」などを漢字でスラスラ書けますか。

私は日頃からパソコンの漢字変換に頼り切っているため、試験当日「瑕疵」が出てこなくなり、思い出すまでにかかなりの時間を要しました。少し違った視点からのアドバイスですが、受験される部門で使用する単語については試験直前に見直しておくことをお勧めします。そうすれば、貴重な時間を無駄にすることなく、記述に集中できると思います。